

第81回 IN AOMORI 2017 全国学校歯科保健研究大会



平成29年10月26日(木)、27日(金)の両日、第81回全国学校歯科保健研究大会が青森県青森市リンクステーションホール青森にて開催された。『「生き抜く力」をはぐくむ歯・口の健康づくりの展開を目指して 一学校歯科保健からはじまる8020健康社会一』というテーマのもと、子供たちの健康格差を少しでも解消し、将来に「希望」がもてる学校歯科保健活動を議論することにより、健康寿命の延伸に寄与する「8020健康社会」の実現を目指して行われた。

1日目

10月26日(木)

❖オープニングアトラクション

青森山田高等学校吹奏楽部による演奏で大会の幕開けとなった。

❖開会式・表彰式

13時より一般社団法人青森県歯科医師会 工藤眞裕副会長が開会宣言され、国歌斉唱が行われた。続いて主催者を代表して林芳正 文部科学大臣(代理:高橋道和 初等中等教育局長)、(一社)日本学校歯科医会 川本強会長、(一社)青森県歯科医師会 山口勝弘会長、(公社)日本学校保健会 横倉義武会長(代理:弓倉整専務理事)、三村申吾 青森県知事(代理:佐々木郁夫副知事)、小野寺晃彦 青森市長(代理:浦田浩美保健部長)より挨拶があった。次に、加藤勝信 厚生労働大臣(代理:田口円裕 医政局歯科保健課長)、(公社)日本歯科医師会 堀憲郎会長(代理:佐藤保副会長)が祝辞を述べた後、臨席を賜った来賓が紹介された。



表彰式に移り、前回開催地代表の(一社)東京都学校歯科医会 末高英世会長に対し、川本会長より感謝状が贈呈された。



次に、第56回全日本学校歯科保健優良校表彰 ▶P.14 が行われた。優秀賞(文部科学大臣賞)は、滋賀県滋賀短期大学附属幼稚園、長野県飯田市立千栄小学校、岐阜県美濃加茂市立山手小学校、熊本県天草市立河浦小学校、埼玉県羽生市立東中学校、東京都立南花畑特別支援学校。日本学校歯科医会会長賞は、青森県三沢市立木崎野小学校他7校。日本歯科医師会会長賞は、群馬県前橋市立天川小学校他10校。奨励賞は、青森県深浦町立いわさき小学校他106校がそれぞれ受賞し、高橋道和 文部科学省初等中等教育局長、川本



強 日学歯会長、佐藤保 日歯副会長より賞状・記念品が授与された。受賞校を代表して青森県三沢市立木崎野小学校 木村典克 教頭が謝辞を述べた。祝電が披露され、(一社)青森県歯科医師会 長内幸一副会長が閉会の辞を述べた。

❖基調講演

14時15分より、「健康長寿社会の実現に向けたライフコース・アプローチ」という演題で、東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野教授 辻一郎先生の基調講演が行われた。ライフコースアプローチ(「胎児期、幼少期、思春期、青年期およびその後の



成人期における物理的・社会的な曝露が成人期の疾病リスクに及ぼす長期的影響を解明しようとするもの」と定義)の取り組みとして次の4つが示された。①アルツハイマー型認知症の発症にはアミロイドβの蓄積だけでなく、遺伝因子、幼少期の教育、生活習慣などが生涯を通じて影響していることが知られているので、その予防のための取り組みも子供の頃から始めるべきである②幼少期や思春期の取り組みによって機能のピークをあげることにより、健康寿命を延ばすことができる③豊かな人生を送るためには、幼児教育で自制心を習得させることが重要である④米国で1962年に始まったペリー早期教育プロジェクトでは、幼児期からの初期教育によって、その後の学業成績、収入、さらには犯罪歴まで改善され、費用対効果が高いことの4つである。また、生活習慣は自分の努力以外にも、社会環境や時代の価値観および社会経済的要因などに大きな影響を受けることもあるので、社会環境の整備は重要である。学校教育における健康格差是正の取り組みは、世代間で格差が継承されていく道筋を断ち切るひとつの手立てになりうる。個人の自活と努力によって行動変容を起こすという従来型の健康づくりでは弱者の健康ニーズは潜在化して格差が広がる一方かもしれない。個人の努力に加えて社会そのものを変えていくことで健康格差を縮小することが期待できる。そこに暮らすだけで、知らず識らずに誰もが健康になれる社会を創ることの重要性を再度強調された。「学校歯科は教育である」ということを改めて強く感じた講演であった。

❖シンポジウム

15時50分より明海大学 安井利一学長の座長のもと「口腔機能の健全育成を求めて」をテーマに開催された。シンポジストとして、昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座口腔衛生学部門 弘中祥司教授が「歯・口の健康を支える摂食嚥下機能の正常発達」のタイトルで、佐世保市立広



田小学校 福田泰三教諭が「学級担任として子供の発育を見据えた保健指導の在り方と可能性が広がるアクティブラーニング保健学習 ～自分の健康は自分で守れる子供の育成を目指して～」のタイトルで、(一社)青森県歯科医師会 高瀬厚太郎監事が「学校歯科保健からはじまる8020健康社会」口腔機能の健全育成を求めて ～健康寿命延伸のための「食」と「噛む」を中心とした健康教育の実践～を発表し18時まで行われた。

演者の弘中祥司教授は、咀嚼は歯科の特権であると述べられ、また、発達障害の原因疾患について説明された。加えて、上手に食べるための要素として、形態、機能、意欲が必要であるとし、第一大臼歯が萌出するまでに口腔機能を正常にすることが望ましいと述べられた。また、福田泰三教諭は、学級担任として子供たちに、教える・解らせるといった子供たちにとっては他人ごとのことから、自分ごととして健康問題を捉え、発育・呼吸・食べ方などに小学一年生から携わっていくことが望ましく、口腔機能の向上にはさらに保幼小の連携が必要であることを提示した。高瀬厚太郎先生は、青森県の県民の健康寿命の延伸には、乳幼児からの生活習慣の改善が必要であると述べ、青森県民の種々のデータを示しながら歯・口の健康と食育を推進し、地域と連携した歯科保健活動が短命県返上には必要であると提言した。その後、ディスカッションに入り、口腔機能の健全育成を推進していく中で生活の場である母子保健と教育の場である学校保健での方法論の違いについて、弘中教授が追加発言し、成長とともに口腔機能も発達していく幼少期と個の成長に合わせて食べ方や口腔機能の発達が変化していく学童期の状況を解剖学的な口腔の変化の解説も加えて説明された。福田教諭からは、朝食を食べない子供が見られることに関してしっかり遊んでしっかり食べることが大事だとし、小学校での状態を幼稚園・保育園にフィードバックするなど相互の情報交換が必要であると述べられた。質疑応答では、上顎前歯の磨き残しがある子供に上唇の動きが悪い状態が見られることに関し、離乳期からのスプーンを使った食べさせ方の間違い等があることが指摘され、顎の幅の狭い子供が増えている状況についても離乳期幼少期のストロー等の使用頻度の高さによる危険性が示された。

◆ポスター発表

会場2階展示室では13校のポスター発表ならびに第56回全日本学校歯科保健優良校表彰優秀賞の6校の発表が展示された。

◆平成29年度 歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール作品展示

会場2階ロビーでは最優秀賞ならびに優秀賞の作品18点が展示された。

◆懇親会

第81回全国学校歯科保健研究大会懇親会は、18時45分より、ホテル青森3F孔雀の間にて300名を超える参加者にて開催された。オープニングセレモニーには、弘前市出身のアルパ奏者 小野華那子さんが登場し、演奏を披露した。また、会場では大間の鮪の解体ショーが行われ、前日揚った50キロの鮪が切り分けられ会場の参加者に振る舞われた。美味しい地酒と肴に満たされ、楽しく和やかに2時間の時を過ごした。



平成二十九年十月二十七日
第八十一回全国学校歯科保健研究大会

我々は、第八十一回全国学校歯科保健研究大会を、この北のまほろば青森県に集い、「8020健康社会」の実現につながる幼児・児童・生徒・教職員の歯・口の健康促進を目指すため、学校家庭・地域と行政が一体となった歯科保健活動を積極的に展開し、学校歯科関係者のより一層の連携を以って「歯・口の健康づくり」を推進することを誓い、ここに大会宣言する。

大会宣言

者による「学校歯科医の鐘」の引き継ぎが行われた。次期開催地紹介DVDが流され、眞境名勉会長が代表挨拶をされた。最後に(一社)青森県歯科医師会 工藤眞裕副会長が閉会宣言をして大会を閉じた。



2日目

10月27日(金)

◆領域別研究協議会

1. 幼稚園・認定こども園・保育所部会

座長(齊藤正人教授)「口呼吸の歯科的、全身的な弊害」、1) 家庭へ繋ぐ歯科保健活動、2) 乳幼児期における歯科指導の意義について ～0から始める8020運動～

2. 小学校部会

座長(福本敏教授)「口腔機能の育成を目指した小学校での歯科保健活動の実際について」、1) 知恵をみがく・心をみがく・体をみがく ～学校歯科医・歯科衛生士・歯科ボランティアとの連携～、2) 自分の心と体に関心をもち、進んで健康づくりに取り組む児童の育成 ～歯・口の健康づくりをとおして～

3. 中学校部会

座長(溝口到教授)「悪い歯並び・咬み合わせが健康に及ぼす影響」、1) 望ましい健康行動を実践できる力を育み、自己実現ができる生徒の育成 ～いい歯立ちを目指した歯科保健活動を通して～、2) 「目指せ! むし歯ゼロ」～歯科講話とブラッシング指導を通して～

4. 高等学校部会

座長(相田潤准教授)「ライフコースを通じた健康格差と学校歯科保健」、1) 高等学校における歯と口の健康づくり ～個別歯科指導の充実と掲示物の工夫～、2) 健康教育からみた高校生の歯・口の健康づくり ～関係機関との連携を通して～

5. 特別支援教育部会

座長(瀬川洋教授)「特別な支援を必要とする子どもの歯・口の健康づくり」、1) 自分の歯・口に関心をもち、健康を維持するための生活習慣づくり、2) 生きる力を育む歯・口の健康づくり ～発達段階や障害に応じた適切な指導を通して～



◆領域別研究協議会報告

11時10分より会場を大ホールに移して、各部会の担当座長より領域別研究協議会の報告があった。続いて大会宣言の朗読が(一社)日本学校歯科医会 長沼善美専務理事から行われ、川本会長に提出された。

◆閉会式

11時50分より閉会式に移り次期開催地が沖縄県に決定されたことを川本会長より報告され、(一社)青森県歯科医師会 山口勝弘会長、川本会長、(一社)沖縄県歯科医師会 眞境名勉会長の3

—— 領域別研究協議会に参加して ——

◆幼稚園・認定こども園・保育所部会

座長(齊藤正人 北海道医療大学歯学部口腔構造・機能発育学系小児歯科学分野教授)が、「口呼吸の歯科的、全身的な弊害」として口呼吸の原因、局所(口)の弊害、全身的な弊害、その治療方法について解説をした。また不正咬合の頻度についても言及し、生活の中で無意識に発現している口唇閉鎖不全症(お口ポカーン)が12歳児では40%にもなっているとのデータを示された。その後、研究発表者として、池田和子 滋賀県大津市立雄琴小学校養護教諭が登壇し、前任校の大津市立膳所幼稚園での取り組みを「家庭へ繋ぐ歯科保健活動」として発表した。歯科健康診断の結果をクラスごとにむし歯地図を作製するなどし、子供の意識を高め、子供からの情報により家庭での健康意識の向上を図っていた。また食育活動を進めるために野菜を育て、収穫し、食べることを実践していた。次に、松橋恵美 認定こども園百石幼稚園副園長が、「乳幼児期における歯科指導の意義について～0から始める8020運動～」として発表された。乳幼児期における歯科衛生指導は、生涯にわたる健康教育の第一歩と位置づけし、園の活動に反映させており、乳幼児期の健康管理のほとんどを担っている保護者への歯科衛生の意識づけを重要視した取り組みが報告された。むし歯の多い園児のデータを分析し、リスク因子を抽出し、各園児のリスクを点数化して評価するなど注目すべき取り組みが見られた。発表後の質疑応答では、むし歯のある幼児に対する家庭での食事の指導法や生活習慣の改善法に関する意見が交換された。また、DVに関する話題では、親自身の発達障害の存在があることなどが挙げられた。子供に対する味覚の教育に関しての質問には地元旬の野菜を主に、無添加の調味料を使い、全てを手作りで提供している取り組みが披露された。

(広報委員会 委員 石川伸一)

◆高等学校部会

領域別協議会 高等学校部会は東北大学大学院歯学研究科国際歯科保健学分野 相田潤准教授を座長に研究発表2題を交えて行われた。まず相田先生より「ライフコースを通じた健康格差と学校歯科保健」と題して基調講演があった。「子供のむし歯は減ったので、これからの課題は歯周疾患だ」と歯科関係者は認識しているが、世界的に認識されている歯科疾患の特徴とは、「有病率

の高さと、そこからくる個人および社会への負担の多さ、そして健康格差の大きさ」である。事実、学校保健統計で最も多い疾患は相変わらずむし歯であり、有病率が高いがゆえに、国民医療費で示されるような社会への負担も多い。疾病別の医療費は平成26年で1兆7185億円で最も高い。近年「ライフコース疫学」が注目されている。ライフコース疫学は、個人の行動や環境、病気の罹患などの健康をおびやかす状態は人生を通じて蓄積していき、後の生活習慣病や死亡のリスクにつながるということを明らかにしている。①子供の虐待とむし歯の関係、②子供の頃の歯科保健行動が悪かったり、むし歯が多かった人は、大人になってからさらに行動や健康が悪くなっていく、③幼少期にブラークが多かった人は大人になってからより多くなっていく、④歯周疾患の発生は20歳代から30歳代の若い時期から始まっている、というデータから学校保健は、まさにライフコースの初期に子供の生活習慣や健康に働きかけることのできる利点があり、学齢期に対策をとることがその後の人生においても有益となる。歯科疾患の健康格差については、高齢期の歯の本数が若い時期に決まる学歴と関係することが知られており、地域格差や所得格差とも関係するとも言われる。健康格差は知識・意識の問題だけでなく様々な社会環境を含んだ「健康の社会的決定要因」が原因である。生活の中で「健康」の優先順位を高くできない家庭の子供にも恩恵があるような格差対策としては、だれでも良い保健行動がとれるような環境づくりのアプローチが重要である。どのような家庭の子供であっても、学校に来れば必ず恩恵を受けられるアプローチが必要で、健康のことを家庭だけに任せず不足部分を補うために学校保健が重要な役割を果たす。フッ化物洗口もそういった意味で健康格差の縮小事例のひとつと言える。学校に行くだけで自然に健康になる環境を作ることが、健康格差を解消することにつながると結ばれた。続いて、大阪市立大阪ビジネスフロンティア高等学校養護教諭 花松亜由先生から「高等学校における歯と口の健康づくり～個別歯科指導の充実と掲示物の工夫～」の研究発表があった。高等学校では歯科保健指導の時間確保が難しいため健康診断時の待ち時間を有効利用する工夫、昼休み時間を利用しての個別健康相談と個別指導(内容の記録もしっかり)の複数回実施、生徒厚生委員会による掲示物の工夫(若者向きの内容とトイレ個室などに掲示)により生徒の意識が向上したことを発表された。また青森

第56回(平成29年度)
全日本学校歯科保健優良校表彰被表彰校一覧

★本会ホームページで、優秀賞受賞校(園)の活動内容をご覧ください。

日学歯ホームページ▶NEWS



■ 優秀賞(文部科学大臣賞)

- 滋賀県 滋賀短期大学附属幼稚園
- 長野県 飯田市立千栄小学校
- 熊本県 天草市立河浦小学校
- 岐阜県 美濃加茂市立山手小学校
- 埼玉県 羽生市立東中学校
- 東京都 東京都立南花畑特別支援学校

■ 日本学校歯科医会会長賞

- 鹿児島県 認定こども園せんだい幼稚園
- 北海道 旭川市立神居東小学校
- 青森県 三沢市立木崎野小学校
- 千葉県 旭市立共和小学校
- 岐阜県 御嵩町立上之郷小学校
- 岩手県 一戸町立一戸中学校

- 大阪府 大阪府立門真西高等学校
- 岐阜県 岐阜県立揖斐特別支援学校

■ 日本歯科医師会会長賞

- 大阪市 大阪市立野里幼稚園
- 群馬県 前橋市立天川小学校
- 埼玉県 羽生市立羽生南小学校
- 愛知県 新城市立鳳来寺小学校
- 鳥取県 倉吉市立明倫小学校
- 香川県 三木町立白山小学校
- 長崎県 平戸市立田平南小学校
- 東京都 足立区立第十三中学校
- 東京都 東京都立大山高等学校(定時制)
- 広島県 広島市立広島特別支援学校
- 鹿児島県 鹿児島県立鹿児島養護学校

■ 奨励賞

- 宮城県 宮城教育大学附属幼稚園
- 山形県 学校法人菅藤学園南山形幼稚園
- 愛知県 学校法人和栄学園ゆめの子幼稚園
- 北海道 札幌市立定山溪小学校
- 北海道 登別市立登別小学校
- 札幌市 札幌市立新琴似北小学校
- 札幌市 札幌市立東札幌小学校
- 青森県 深浦町立いわさき小学校
- 岩手県 二戸市立二戸西小学校
- 宮城県 仙台市立上杉山通小学校
- 山形県 尾花沢市立鶴子小学校
- 福島県 いわき市立中央台東小学校
- 福島県 白河市立信夫第二小学校
- 福島県 西郷村立熊倉小学校

- 福島県 湯川村立荻川小学校
- 茨城県 取手市立寺原小学校
- 茨城県 坂東市立内野山小学校
- 茨城県 日立市立山部小学校
- 茨城県 鉾田市立鉾田小学校
- 栃木県 宇都宮市立泉が丘小学校
- 栃木県 下野市立砥園小学校
- 群馬県 高崎市立倉淵小学校
- 千葉県 千葉市立千草台小学校
- 千葉県 船橋市立海神南小学校
- 埼玉県 さいたま市立常盤小学校
- 埼玉県 羽生市立手子林小学校
- 東京都 江戸川区立下鎌田小学校
- 東京都 品川区立城南第二小学校
- 神奈川県 横須賀市立汐入小学校

県立鰐ヶ沢高等学校養護教諭 八木澤明美先生から「健康教育からみた高校生の歯・口の健康づくり ～関係機関との連携を通じて～」の研究発表では、高校生では敬遠されがちな染め出し歯みがき指導を通して、「みがいている」と「みがけている」の違いを実感させ生徒の意識向上に努めた。また健康診断後の個人面談を全員に行うことで自分の歯・口の状況の理解につながったことが発表された。研究発表の後の質疑応答では、受診率向上のための工

夫について、恥ずかしがる生徒への指導の工夫、洗口設備のない高等学校での昼食後の歯みがきについて、小中学生レベルの知識しかない高校生への指導についてなど、活発な意見交換が行われた。小中学校より広範囲の地域から通学する生徒たちの地域格差・家庭格差を少しでも解消する役割が高等学校にも求められることを改めて確認できた研究協議会であった。

(広報委員会 委員 白木完治)

第81回全国学校歯科保健研究大会を終えて

未来を担う子供たちのために

一般社団法人青森県歯科医師会 会長 山口勝弘

去る平成29年10月26、27日に青森市で開催いたしました「第81回全国学校歯科保健研究大会」には、全国各地から多くの皆様方のご参加を賜り盛会裡に終了いたしました。大会の開催にご尽力をいただきました日本学校歯科医会をはじめとする関係団体の方々に深く感謝申し上げます。

本大会は、『「生き抜く力」をはぐくむ歯・口の健康づくりの展開を目指して』をメインテーマに、「学校歯科保健からはじまる8020健康社会」をサブテーマとして開催いたしました。青森山田高等学校吹奏楽部の素晴らしい演奏で開幕し、開会式、表彰式が始まりました。基調講演は辻一郎先生(東北大学大学院教授)から「健康長寿社会の実現に向けたライフコース・アプローチ」と題してお話いただきました。生活習慣をライフコースで捉える最新の概念をご披露いただき、大会テーマに相応しい講演内容に大きな感銘を受けました。その後、安井利一先生(明海大学長)を座長としてのシンポジウムは、「口腔機能の健全育成を求めて」と題して新鮮で貴重な知見をご紹介いただきました。2日目の領域別研究協議会やポスター発表などの会場では、熱い議論が盛り上がりおりました。

子供たちが生涯にわたって健康に生き抜いていくためには、歯・口の健康づくりの推進と充実に加えて、学校歯科医だけでなく学校、家庭、かかりつけ歯科医などの連携による「地域力」が大切であることを強く体感できた大会でした。

結びに、ご参加いただきました多くの皆様方の今後の活躍とご健勝をご祈念申し上げ、開催地を代表してご報告及びお礼のご挨拶といたします。



次年度開催地(沖縄県)より

第82回全国学校歯科保健研究大会のご案内

一般社団法人沖縄県歯科医師会 会長 眞境名 勉

第82回全国学校歯科保健研究大会が来年の12月6日(木)、7日(金)に沖縄県宜野湾市の沖縄コンベンションセンター(劇場棟・会議棟)にて開催されます。会場周辺は野外劇場や県内最大級のヨットマリーナ、トロピカルビーチ等がありちょっとした散策も楽しむことができます。大会のサブテーマは「学校歯科保健活動のもつ教育力を考える」と決定いたしました。また、基調講演には『なぜ、「かかりつけ歯科医」のいる人は長寿なのか?』等の著書で知られます首都大学東京・名誉教授の星旦二氏を招聘して多くの県民の方にも聞いていただけるように市民公開講演といたしました。沖縄県の歯科保健の現状は残念ながら子供たちのむし歯の罹患率が全国でも高くその改善に行政と共に取り組んでいるところです。12月初旬の沖縄はコートが必要のないまだまだ温かい気候です。皆様の大会へのご参加を心よりお待ちしております。



神奈川県 横浜市立嶮山小学校	滋賀県 守山市立吉身小学校	大分県 国東市立旭日小学校	兵庫県 豊岡市立竹野中学校
神奈川県 横浜市立下野谷小学校	和歌山県 紀美野町立下神野小学校	熊本県 熊本市立城東小学校	岡山県 倉敷市立南中学校
神奈川県 横浜市立豊岡小学校	和歌山県 和歌山市立三田小学校	宮崎県 宮崎市立本郷小学校	香川県 東かがわ市立引田中学校
神奈川県 横浜市中区立中尾小学校	奈良県 大淀町立大淀緑ヶ丘小学校	鹿児島県 出水市立蔵島小学校	福岡県 筑紫野市立筑紫野南中学校
川崎市 川崎市立西丸子小学校	京都府 京都市立朱雀第二小学校	鹿児島県 鹿児島市立名山小学校	岩手県 岩手県立紫波総合高等学校
山梨県 甲州市立神金小学校	京都府 京都市立元町小学校	札幌市 札幌市立定山溪中学校	宮城県 宮城教育大学附属特別支援学校
長野県 駒ヶ根市立赤穂南小学校	京都府 城陽市立久世小学校	青森県 深浦町立岩崎中学校	群馬県 群馬県立吾妻特別支援学校
長野県 松本市立梓川小学校	大阪府 河内長野市立千代田小学校	宮城県 気仙沼市立唐桑中学校	東京都 東京都立水元特別支援学校
新潟県 新潟市立南浜小学校	大阪府 堺市立さつき野小学校	栃木県 栃木市立西方中学校	新潟県 新潟県立はまぐみ特別支援学校
静岡県 御前崎市立御前崎小学校	大阪府 大阪市立上福島小学校	栃木県 日光市立日光中学校	静岡県 静岡県立吉田特別支援学校
静岡県 函南町立函南小学校	兵庫県 明石市立大久保南小学校	群馬県 桐生市立清流中学校	滋賀県 滋賀県立豊話学校
静岡県 浜松市立西都台小学校	兵庫県 たつの市立西栗栖小学校	千葉県 鴨川市立安房東中学校	大阪府 大阪府立たまたがわ高等支援学校
愛知県 あま市立秋竹小学校	岡山県 瀬戸内市立牛窓西小学校	千葉県 船橋市立湊中学校	岡山県 岡山県立岡山聾学校
名古屋市 名古屋市中区立庄内小学校	広島県 福山市立熊野小学校	埼玉県 宮代町立百間中学校	鳥取県 鳥取県立倉吉養護学校
名古屋市 名古屋市中区立鶴舞小学校	山口県 阿武町立阿武小学校	新潟県 上越市立頸城中学校	山口県 山口県立下関南総合支援学校
名古屋市 名古屋市中区立御園小学校	山口県 下関市立勝山小学校	名古屋市 名古屋市中区立山手山東中学校	香川県 香川県立香川東部養護学校
岐阜県 土岐市立土岐津小学校	香川県 さぬき市立造田小学校	和歌山県 海南市立第三中学校	長崎県 長崎県立島原特別支援学校
石川県 小松市立椎松小学校	愛媛県 大洲市立大洲小学校	京都府 福知山市立川口中学校	大分県 大分県立日田支援学校
福井県 越前市立大虫小学校	愛媛県 松山市立双葉小学校	大阪府 大阪市立茨田中学校	
富山県 砺波市立砺波東部小学校	福岡県 北九州市立志井小学校	兵庫県 姫路市立網干中学校	

平成29年度

全国学校保健・安全研究大会

第67回

全国学校歯科医協議会

三重県

平成29年度 全国学校保健・安全研究大会

平成29年11月16日(木)・17日(金)、三重県津市の三重県総合文化センターで「生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進 ～自ら心身の健康を育み、安全を確保できる子供の育成～」という主題のもと、平成29年度全国学校保健・安全研究大会が開催された。

16日の開会式では、林芳正 文部科学大臣(代理)、公益社団法人日本学校保健会 横倉義武会長(代理)、三重県教育委員会 廣田恵子教育長等の挨拶の後、表彰式が行われ、48名の学校歯科医を含む学校医、学校薬剤師、団体等が学校保健・学校安全の功労者として文部科学大臣表彰を受けた。

記念講演では、東京学芸大学教育学部の渡邊正樹教授が「学校事故対応に関する指針とこれからの学校安全」という演題で講演された。

17日の課題別研究協議会「第5課題：歯・口の健康づくり」(三重県総合文化センター多目的ホール)では、「生涯にわたる健康管理の基礎となる歯・口の健康づくりの進め方」と題して、講師に日本歯科大学の福田雅臣教授、指導助言者(コーディネーター)に東京都教育庁地域教育支援部の山田善裕歯科保健担当課長のもと研究発表が行われた。

- ①三重県立聾学校の山中千聡養護教諭が、「歯科健康診断の効果的な実施と健康診断を活用した健康教育の充実について」を研究発表され、聴覚支援学校での歯科健康診断の結果を視覚的に分かり易くする工夫や、手話による個別指導についての取り組みについて発表された。
 - ②岩手県立二戸市立福岡中学校の佐藤順校長と馬場美沙紀養護教諭が、「自己実現を図るための健康教育～いい歯旅立ちを目指した歯科保健活動を通して～」を研究発表され、歯科健康診断の工夫や学校歯科医との連携、治療勧告の工夫の取り組みについて発表された。
 - ③福井県福井市社北小学校の藤田希代子養護教諭が、「保健室から発信する歯と口の健康づくりの取組～学校、家庭及び地域社会が連携した学校歯科保健活動について」を研究発表され、歯と口の健康づくり年間計画の作成や児童保健委員会活動の工夫、学校保健委員会などについての取り組みについて発表された。
- 最後に、福田雅臣先生による「生涯にわたる健康管理の基盤となる歯・口の健康づくりの進め方～歯・口の健康づくりを目指した学校保健活動の進め方～」と題する講義が行われた。



平成29年度 学校保健および学校安全の功労に関する文部科学大臣表彰 (学校歯科医 48名)

都道府県	氏名
北海道	上田 昇
北海道	坂本 勝昭
北海道	石川 紘一
青森県	名久井茂良
岩手県	狩野 裕史
岩手県	三浦 幹也
宮城県	吉中 光六
宮城県	若林 常功
秋田県	小番 孝司
山形県	笹原 則一
福島県	苅部 仁
茨城県	小澤 一友
栃木県	伊東 隆一
群馬県	中田 洋
埼玉県	金子 直司
千葉県	大橋 康男
東京都	釜我 克正
東京都	野田 純久
東京都	鈴木 普久
神奈川県	堀内 守和
新潟県	八百枝 勝
石川県	嶋下 龍夫
福井県	坂下 邦夫
長野県	飯島 和彦
岐阜県	菱川清太郎
三重県	橋本 敏
滋賀県	古藤 俊和
京都府	小瀬木良和
大阪府	上田 直克
大阪府	井手 成信
兵庫県	矢野 丘人
兵庫県	西田 浩
奈良県	小池 恭弘
和歌山県	辻本 富享
島根県	石田 清士
岡山県	鈴木 勝己
広島県	松田 信隆
山口県	高野 和憲
徳島県	三原 正路
香川県	阿部 直樹
愛媛県	兵藤 正昂
高知県	長野 哲也
福岡県	三箇 正人
福岡県	平瀬 久義
長崎県	高橋 覺
熊本県	福田 民男
大分県	高山 健治
沖縄県	友寄 喜樹

(敬称略)

第67回 全国学校歯科医協議会



第67回全国学校歯科医協議会は、11月16日(木) 15:30より三重県総合文化センター多目的ホールで開催された。三重県歯科医師会の田所泰会長、日本学校歯科医会の川本強会長の挨拶および来賓祝辞の後、文部科学大臣表彰受賞者が紹介された。特別講演では、三重県歯科医師会の稲本良則専務理事の座長のもと、講演として、子ども虐待防止歯科研究会の森岡俊介副会長が「歯科保健から見た児童虐待 ―学校歯科医の関わり―」、三重県歯科医師会の羽根司人副会長「児童虐待予防 三重県歯科医師会10年の歩み」という演題で講演された。

講演 歯科保健から見た児童虐待 ―学校歯科医の関わり―

子ども虐待防止歯科研究会 森岡俊介副会長

少子化が進む一方で、児童相談所での児童虐待対応件数は毎年増加し、特に心理的虐待に係わる相談件数が著しく増加している。平成29年6月の児童福祉法と児童虐待の防止等に関する法律の改正により、児童虐待における歯科の役割が明確となり、今後は早期発見だけではなく、児童虐待の予防や事後措置に係わることも重要になることを講演された。

さらに、子ども虐待防止歯科研究会第3回大会は、平成30年11月11日(日)に広島県歯科医師会館で開催されるとお知らせもあった。

講演

児童虐待予防 三重県歯科医師会10年の歩み

三重県歯科医師会 羽根司人副会長

虐待児童をスクリーニングする新しい指数としてMIES(要保護児童スクリーニング)を考案し、歯科受診行動に変化が出るか調査する事業を2年間行なっている。この結果を踏まえ三重県と三重県歯科医師会の10年の取り組みと今後の展望について講演された。

引き続き、会場を津都ホテル「伊勢の間」に移し、第67回全国学校歯科医協議会懇親会が行なわれた。司会は、三重県歯科医師会の稲本良則専務理事、挨拶を三重県歯科医師会の田所泰会長がされ、乾杯は次期開催県の鹿児島県歯科医師会の伊地知博史会長がされた。なお第68回全国学校歯科医協議会は、平成30年10月25日(木)に鹿児島県の城山観光ホテルで開催されると報告があった。(広報委員会 委員 高橋 裕幸)

